

日本学術会議第163回総会資料

(第22期 第3回)

平成24年10月 9日(火)

10月10日(水)

10月11日(木)

日 本 学 術 会 議

一 般 的 注 意 事 項

1 出席のサインについて

総会に出席される方は、受付で出席のサインをお願いします。

2 旅費の支給について

旅費請求書を配付いたしますので、押印してください。

3 発言する場合

発言を要求する際には挙手をし、議長から指名された後に、最寄りのマイクを通して所属部、氏名を言ってから発言してください。

4 委員会開催の周知について

休憩時等に委員会を開催する場合は、エレベーターわきの電光掲示板にてお知らせいたします。

5 その他

- (1) インターネットに接続できるパソコンを1階ラウンジに御用意しましたのでお気軽にご利用ください。
- (2) 配付資料については、お持ち帰りいただきますようお願いいたします。
なお、不要な資料は席上にお残してください。

第 1 6 3 回総会日程

— 第 2 2 期第 3 回 —

第 1 日程表

	10:00	12:00	13:00	14:30	16:30
10 月 9 日 (火)	総会 ○提案説明、採決 ○会長活動報告 ○各副会長活動報告 ○年次報告書報告 ○審議経過報告 ・科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会報告 ・大学教育の分野別質保証推進委員会報告	昼休み	部会	総会 ○前原科学技術政策担当大臣挨拶 ○「科学者の行動規範」について ○審議経過報告 ・科学・技術のデュアルユース問題に関する検討委員会報告 ・高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会報告 ○各部活動報告 ○自由討議	
	10:00	12:00	13:30		
10 月 10 日 (水)	部会	昼休み	各種委員会等		
			(日本学術会議/インターアカデミーカウンスル共同主催 原子力発電所事故の影響に関する国際会議「原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割」)		
	10:00				
10 月 11 日 (木)	各種委員会等				

(総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。)

第 2 会場

総 会……講 堂

その他委員会等……当日掲示板等で通知

報	1
総 会	1 6 3

日 本 学 術 会 議 活 動 状 況 報 告

平成 2 4 年 1 0 月 9 日

前回（第 1 6 2 回）総会以降の活動状況報告

第 1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4 月 10 日（火）	提言「学術からの提言 -今、復興の力強い歩みを-」等の内閣総理大臣への手交	大西会長、小林副会長、春日副会長
4 月 12 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
4 月 17 日（火）	東日本大震災復興支援委員会からの提言に係る宮城訪問	大西会長、小林副会長、春日副会長
4 月 18 日（水） ～22 日（日）	STS フォーラム評議員会等（ベルリン）	大西会長
4 月 23 日（月）	東日本大震災復興支援委員会からの提言に係る岩手及び福島訪問	大西会長、小林副会長、春日副会長
4 月 24 日（火）	総合科学技術会議 科学技術イノベーション政策推進調査会議	大西会長
4 月 25 日（水）	横断型基幹科学技術研究団体連合 2012 年度定時総会 ※特別講演	春日副会長
4 月 26 日（木）	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
5 月 1 日（火）	原子力委員会定例会（合同庁舎 4 号館） ※説明・質疑応答	春日副会長
5 月 8 日（火）	「G 8 サミットに向けた各国学術会議の共同声明」についての記者懇談会	大西会長、春日副会長
5 月 9 日（水）	世界科学データシステム国際プログラムオフィス（WDS-IP0）開所式等（東京国際フォーラム）※挨	大西会長、春日副会長

	挨拶	
5月10日(木)	連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る」※挨拶	大西会長
5月10日(木)	G-Science 共同声明に関する総理手交(官邸)	大西会長、春日副会長
5月12日(土)	公開シンポジウム「一大都市改革の新たな展開」※パネリスト	小林副会長
5月13日(日)	第14回 IACIS 国際会議 ※挨拶	大西会長
5月17日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
5月18日(金)	総合科学技術会議 第1回グリーンイノベーション戦略協議会	大西会長
5月20日(日) ～24日(木)	ミャンマー訪問(ヤンゴン・ネピドー)	春日副会長
5月22日(火)	総合科学技術会議 第1回科学技術イノベーション政策推進専門調査会基礎研究及び人材育成部会	大西会長
5月31日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
6月4日(月)	日本学士院第102回授賞式	大西会長
6月4日(月)	第25回 ニュートリノ・宇宙物理国際会議開会式(京都市) ※主催者挨拶	春日副会長
6月4日(月)	総合科学技術会議 第2回グリーンイノベーション戦略協議会	大西会長
6月5日(火)	総合科学技術会議 科学技術イノベーション政策推進専門調査会基礎研究及び人材育成部会	大西会長
6月6日(水)	民主党東日本大震災復旧・復興検討PT	大西会長、小林副会長
6月7日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
6月10日(日) ～16日(土)	WSF 運営委員会(リオデジャネイロ)	春日副会長
6月14日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
6月21日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
6月25日(月)	総合科学技術会議 第4回科学技術イノベーション政策推進専門調査会	大西会長
6月28日(木)	総合科学技術会議 有識者会合	大西会長

7月2日(月)	総合科学技術会議 第3回グリーンイノベーション戦略協議会	大西会長
7月3日(火)	学術フォーラム「今、復興の力強い歩みを―災後のエネルギー政策・産業復興を考える」※挨拶、報告、司会	大西会長、武市副会長、小林副会長、春日副会長
7月5日(木)	総合科学技術会議 有識者会合	大西会長
7月8日(日)～14日(土)	第12回アジア学術会議、LIPI 訪問(ジャカルタ、ボゴール)	大西会長、春日副会長
7月13日(金)	中部地区会議学術講演会(金沢大学)	武市副会長
7月18日(水)～19日(木)	第三部夏季部会(京都大学)	大西会長、武市副会長
7月19日(木)	総合科学技術会議 第5回科学技術イノベーション政策推進専門調査会	大西会長
7月26日(木)	総合科学技術会議 有識者会合	大西会長
7月28日(土)～29日(日)	第一部夏季部会(京都大学)	大西会長、小林副会長
7月30日(月)	総合科学技術会議 本会議	大西会長
8月2日(木)	総合科学技術会議 産学官連携功労者表彰選考委員会第2回	大西会長
8月3日(金)	第二部夏季部会(東北大学)	大西会長、春日副会長
8月9日(木)	総合科学技術会議 有識者会合	大西会長
8月15日(水)	全国戦没者追悼式	大西会長
8月23日(木)	総合科学技術会議 有識者会合	大西会長
8月26日(日)	第26回国際計量生物学会議市民公開講座(神戸市)	春日副会長
8月27日(月)	第26回国際計量生物学会議開会式(神戸市) ※主催者挨拶	春日副会長
8月30日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
8月31日(金)	学術フォーラム「原発事故調査で明らかになったこと―学術の役割と課題―」 ※挨拶、コーディネーター、討論、閉会挨拶	大西会長、春日副会長

9月1日(土)	学術フォーラム「リスクを科学するフォーラム」 ※開会挨拶、講演	春日副会長
9月2日(日) ～6日(木)	Kavli Prize Week 出席(ノルウェー オスロ)	春日副会長
9月6日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月9日(日)	第16回国際アルコール医学生物学総会開会式 ※主催者挨拶	春日副会長
9月10日(月)	学術フォーラム「データと発見」※開会挨拶	春日副会長
9月11日(火)	「高レベル放射性廃棄物の処分に関する取り組み について(回答)」の原子力委員会への手交	大西会長
9月11日(火)	第8回福島県「県民健康管理調査」検討委員会	春日副会長
9月13日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月13日(木)	総合科学技術会議科学技術イノベーション政策推 進専門調査会	大西会長
9月16日(日)	第19回国際質量分析会議開会式 ※主催者挨拶	春日副会長
9月20日(木)	The 3rd Symposium of Indian Scientists Association In Japan ※講演	大西会長
9月20日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月27日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
9月28日(金)	北海道地区会議学術講演会(北海道) ※開会挨拶、パネルディスカッション	春日副会長
9月30日(日)	第32回国際泌尿器科学会総会(福岡) ※開会挨拶	大西会長
9月30日(日) ～10月3日 (水)	24th Meeting of CSPR(フランス パリ)	春日副会長
10月3日(水)	総合科学技術会議 第4回基礎研究・人材育成部 会	大西会長
10月4日(木)	総合科学技術会議有識者会合	大西会長
10月4日(木)	総合科学技術会議 グリーンイノベーション戦略 協議会	大西会長

10月7日（日） ～8日（月）	STS フォーラム（京都） ※APM 会合開会挨拶、閉会挨拶 ※講演	大西会長、春日副会長
--------------------	---------------------------------------	------------

第2 会長出席国際会議

月 日	会 議 名	開催地
7月8日（日） ～12日（木）	第12回アジア学術会議	インドネシア・ボゴール

第3 表敬訪問

月 日	会 議 名（開催地）	対応者
6月4日（月）	ミャンマー教育省高等教育局次長による表敬	春日副会長
5月8日（火）	ICSU Lee 会長による表敬	大西会長、春日副会長
6月28日（木）	スロバキア科学アカデミーによる表敬	大西会長、春日副会長
9月14日（金）	在日南アフリカ共和国大使による表敬	大西会長、春日副会長
10月2日（火）	カブリ財団 Conn 会長による会長表敬	大西会長

第4 会長談話

次の会長談話を公表した。

人口と消費に関する共同声明「IAP Statement on Population and Consumption」の公表に当たっての日本学術会議会長談話

（平成24年6月14日公表）

第5 提言等の承認

○回答

1 日本学術会議

回答「高レベル放射性廃棄物の処分について」

（平成24年9月11日公表）

○提言

1 東日本大震災復興支援委員会

提言「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」

（平成24年4月9日公表）

2 東日本大震災復興支援委員会

提言「災害廃棄物の広域処理のあり方について」

(平成24年4月9日公表)

3 東日本大震災復興支援委員会災害に強いまちづくり分科会

提言「二度と津波犠牲者を出さないまちづくりー東北の自然を生かした復興を世界に発信ー」

(平成24年4月9日公表)

4 東日本大震災復興支援委員会産業振興・就業支援分科会

提言「被災地の求職者支援と復興法人創設ー被災者に寄り添う産業振興・就業支援をー」

(平成24年4月9日公表)

5 東日本大震災復興支援委員会放射能対策分科会

提言「放射能対策の新たな一步を踏み出すためにー事実の科学的探索に基づく行動をー」

(平成24年4月9日公表)

6 物理学委員会・地球惑星科学委員会

提言「我が国の宇宙政策のあり方と宇宙科学の推進についてー宇宙開発利用のさらなる発展のためにー」

(平成24年6月27日公表)

7 第二部ゲノムコホート研究体制検討分科会

提言「ヒト生命情報統合研究の拠点構築ー国民の健康の礎となる大規模コホート研究ー」

(平成24年8月8日公表)

○報告

1 大学教育の分野別質保証推進委員会・経営学分野の参照基準検討分科会

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：経営学分野」

(平成24年8月31日公表)

第6 日本学術会議主催学術フォーラム

1 日本学術会議主催学術フォーラム「今、復興の力強い歩みをー災後のエネルギー政策・産業復興を考える」を平成24年7月3日（火）に日本学術会議講堂にて開催した。

2 日本学術会議主催学術フォーラム「原発事故調査で明らかになったことー学術の役割

と課題一」を平成24年8月31日（金）に日本学術会議講堂にて開催した。

3 日本学術会議主催学術フォーラム「リスクを科学するフォーラム」を平成24年9月1日（土）に日本学術会議講堂にて開催した。

4 日本学術会議主催学術フォーラム「データと発見-Data Intensive Scientific Discovery-」を平成24年9月10日（月）に日本学術会議講堂にて開催した。

第7 国際会議の開催

1 「第14回 IACIS 国際会議」を平成24年5月13日（日）～5月18日（金）に宮城県にて開催した。

2 「第25回ニュートリノ・宇宙物理国際会議」を平成24年6月3日（日）～6月9日（土）に京都府にて開催した。

3 「第26回国際計量生物学会議」を平成24年8月26日（日）～8月31日（金）に兵庫県にて開催した。

4 「第16回国際アルコール医学生物学会総会」を平成24年9月9日（日）～9月12日（水）に北海道にて開催した。

5 「第19回国際質量分析会議」を平成24年9月15日（土）～9月21日（金）に京都府にて開催した。

6 「第32回国際泌尿器科学会総会」を平成24年9月30日（日）～10月4日（木）に福岡県にて開催した。

第8 日本学術会議地区会議

1 日本学術会議中部地区会議学術講演会を平成24年7月13日（金）に石川県にて開催した。

2 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「食の安全とレギュラトリーサイエンス」を平成24年9月28日（金）に北海道にて開催した。

第9 会員の辞職及び任命

会員の辞職

中村祐輔会員が、平成24年4月30日付けで辞職した。

会員の任命

吉田進連携会員が、平成24年5月31日付で会員に任命された。

第10 慶弔等

1 慶事

平成24年春の叙勲受章者

【瑞宝大綬章】

阿部 博之（元会員(第17-19期)、元連携会員(第20-21期)）

松尾 稔（元会員(第15-17期)）

【瑞宝重光章】

北原 保雄（元会員(第17, 19期)）

倉田 毅（元連携会員(第20-21期)）

曾我 直弘（元会員(第17-18期)）

【瑞宝中綬章】

浅井 富雄（元会員(第16期)）

伊藤 厚子（元連携会員(第20-21期)）

梅原 郁（元会員(第17期)）

大熊 幹章（元会員(第16期)）

菊池 敏夫（元会員(第17期)）

木村 好次（元会員(第19期)）

杉本大一郎（元会員(第14-16期)）

高倉 直（元会員(第15-17期)）

中村 英夫（元会員(第19期)）

若杉 明（元会員(第16-18期)）

【旭日重光章】

Michal Kleiber ポーランド科学アカデミー総裁、元科学・情報技術大臣
(日本・ポーランド間の科学技術交流及び相互理解の促進に寄与した功労で受章)

平成24年春の褒章受章者

【紫綬褒章】

圓山 重直（連携会員(第22-23期)）

山本 雅之（会員(第22-23期)、元連携会員(第20-21期)）

田中 明彦（連携会員(第20, 22-23期)）

長澤 寛道（連携会員（第 21-22 期））
花岡 文雄（連携会員（第 20-23 期））
池内 克史（連携会員（第 20-22 期））
岡本 龍明（連携会員（第 20-22 期））
森棟 公夫（会員（第 21-22 期）、元連携会員（第 20 期））
小杉 泰（元会員（第 20-21 期））
北 徹（元会員（第 20-21 期）、連携会員（第 22-23 期））
北岡 良雄（連携会員（第 20-22 期））

2 ご逝去

瀧内 比呂也（たきうち ひろや） 52歳 4月27日
特任連携会員 大阪医科大学内科学（化学療法担当）教授

外村 彰（とのむら あきら） 70歳 5月2日
連携会員（第22期）、元会員（第19-21期） 株式会社日立製作所フェロー

團藤 重光（だんどう しげみつ） 98歳 6月25日
元会員（第1期（第2部幹事）、第5-7期） 元最高裁判所判事、東京大学名誉教授

林 雅子（はやし まさこ） 95歳 8月26日
元会員（第13-15期） お茶の水女子大学名誉教授

一番ヶ瀬 康子（いちばんがせ やすこ） 85歳 9月5日
元会員（第13-15期） 日本女子大学名誉教授

乾 崇夫（いぬい たかお） 92歳 9月13日
元会員（第11期） 東京大学名誉教授、日本学士院会員

小林 太三郎（こばやし たさぶろう） 88歳 9月20日
元会員（第16-17期） 早稲田大学名誉教授

西田 龍雄（にしだ たつお） 83歳 9月26日
元会員（第13期） 京都大学名誉教授

岩崎 庸夫（いわさき つねお） 72歳 9月26日
元会員（第19期） 目白大学副学長、筑波大学名誉教授

第11 その他

事務局人事異動

企画課長

旧：清水 誠

（平成24年9月11日付）

新：渡邊 清

（平成24年9月11日付）

報	2
総 会	1 6 3

会 長 報 告

日本学術会議の活動の報告と方針

2012 年 1 0 月 9 日 第 22 期日本学術会議会長 大西隆

1. 22 期の方針と 4-9 月期の活動

去る 4 月の総会で会長報告を行い、22 期及び 2012 年 4-9 月期の方針として以下を述べた。

1-1 22 期の方針

(1) 科学者の意見集約機能の強化

多くの会員・連携会員が、出来るだけ早く、本格的に日本学術会議の活動に参画できるようにすること

(2) アカデミーの国際連携への貢献

日本学術会議の重要な活動分野の一つが、各国アカデミー（総合的科学者組織）との交流や、国際的アカデミー組織の一員としての活動を進めること

(3) 国民との連携及び内外に向けた情報発信力の強化

国民の科学に対する期待に応えるために、国民が関心を持つ領域で科学者からのメッセージを的確に発信し、社会的貢献と責任を果たす

1-2 2012 年 4 月—9 月の方針

(1) 東日本大震災復興支援

(2) 学術の社会的責任

(3) 学術の先端と日本の可能性

2. 2012 年 4 月—9 月と活動とその成果

(1) 東日本大震災復興支援

4 月 9 日に提言（学術からの提言—今、復興の力強い歩みを）をまとめ、4 月 10 日に総理大臣に手交したのをはじめ、関係閣僚、政党関係者への説明、被災県知事・市長に説明、関係団体に送付。

7月3日に、提言についての報告と新たな分科会を含めた審議体制及び課題を議論するために、学術フォーラムを開催。その他、関係学会への報告、種々の寄稿、メディアへの対応。

社会的反響としては、提言発表について、各紙が紹介（放射能の実態分析、放射性廃棄物の現地処理拡充及び広域処理、減災庁設置提案、復興公益法人等が注目される）。さらに公益法人としての認定に関して学術会議の提言を踏まえた対応をとるよう公益認定等委員会委員長の見解が示される。

委員会及び3分科会を継続、さらに「災害に対するレジリエンス構築分科会」、「福島復興支援分科会」、「エネルギー供給問題検討分科会」を新設。

8月31日（金）に、国会、政府、民間事故調委員長を招いて「原発事故調査で明らかになったこと―学術の役割と課題」を開催。事故調査の主要成果と今後の課題、学術・学術会議の役割を論ずる。

東日本大震災からの復興はなお多くの課題を残しており、的確に学術的な課題を把握しつつ、復興の進展のために必要な提言等を行うことが求められている。

（２）学術の社会的責任論

社会における学術の存在価値を正しい方法で高めていくことを通じて学術の社会的責任を果たす。すなわち、社会的関心事に、的確に学術からメッセージを発信し、社会が考え、解決するのを助ける。

デュアルユース問題へ取り組み、議論を概ねまとめ、この観点からの行動規範の補足的拡充を検討する段階に入った。

原子力発電問題については、2010年9月に審議依頼を受けた「高レベル放射性廃棄物の処分について」を検討委員会が取りまとめ、学術会議として本年9月に原子力委員会委員長に回答。これまでの最終処分法に基づく地域への説明を通じて理解を求め、処分地を確保という方法では解決しないことを、各地の実態、3・11の経験を通じて明らかにした。総量管理、暫定保管、多段階合意形成等に基づく新たな取り組みについて提言。メディアにも広く取り上げられ注目される。

「原子力利用の将来像についての検討委員会」を発足（9月）、原子力発電所の安全性、電力以外の平和利用の安全性・在り方、さらに原子力平和利用のための科学技術・人材の継承がテーマ。

日本学術会議改革検証委員会、及びその2つの分科会である学術と社会及び政府との関

係改革検証分科会、学術会議改革自己点検分科会を発足させ、2005 年改革の実施及び今日までの成果の検証と、「特に学術会議の活動が社会に有用なものとなっているか」の検証に着手。その中では、学術の社会貢献・社会的責任についても審議していく。

原子力利用の在り方等、社会的に極めて注目が高い問題が含まれており、学術会議としての役割を明らかにしつつ積極的な貢献をなすことが必要である。

個人的には、「新型インフルエンザ対策有識者会議」に参加、社会機能分科会を担当。

(3) 学術の先端と日本の可能性

学術会議では、今期後半で発信するべく「学術の大型研究計画検討分科会」の案がまとめられ、学術会議全体での検討に付されている。広く科学技術の振興、国際的な連携とわが国の役割といった観点から、大型研究施設や研究計画について提言を行い、科学・技術の更なる発展を方向づける。

大学教育の質保証について経営学分野で提言をまとめるとともに、文部科学省からの審議依頼を受けて一層体制を充実させて臨むことになった。

分野別委員会等での各専門領域での検討。総合科学技術会議議員として、25 年度の科学技術予算の編成過程に参加、アクションプラン、施策パッケージの手法による重点化と成果の社会還元を重視した政策立案を目指す。足かけ 3 年目を迎えた FIRST の中間評価等、大型研究費の成果を評価。

個人的には、国家戦略会議フロンティア分科会に参加し、繁栄、幸福、叡智、平和の 4 部会からなる議論をまとめ「共創の国づくり」をまとめた（7 月）。この中で宇宙から海洋まで、あらゆる領域での科学技術の先端的研究、成果の応用が日本にとっては重要であると主張。

3 22 期の方針とこれまでの 6 カ月の活動

(1) 科学者の意見集約機能強化

東日本大震災復興支援委員会の新たな分科会である「災害に対するレジリエンス構築分科会」では、会員・連携会員に対して委員の会議内公募を行い、応募した全員を委員として指名。課題別委員会、幹事会附置委員会等の委員会構成において、専門性、そのバランス、幹事会などとの連携等を考慮した委員構成に加えて、広く会員・連携会員に呼びかけて、自発的に参加してもらう仕組みを活用していく試行例となる。

原子力利用の将来像検討委員会においても、委員会、及び今後設置する分科会委員を会

議内公募する。

学術会議内部では、掲示板を活用してそれぞれのレベルで意見交換を深めたり、広く会員・連携会員との意思の疎通を図るために活用されるようになった。

(2) アカデミーの国際連携への貢献

ICSU 会長との懇談、ICSU、IAP、IAC、SCA、WSF 等の活動への積極的参加、各種委員会への委員推薦等を行った。STS フォーラムの準備及びフォーラムに参加し、各国参加者と交流。スロバキア、インド、南アフリカ、イスラエル、インド等の科学技術関係者、大使等と意見交換。

今総会時に、「原子力発電所事故の教訓・過酷事故発生時の世界の科学アカデミーの役割」の国際会議を IAC と共同主催する。またこれに合わせて、復興支援委員会提言の英語版を発刊。

さらに科学者の人権擁護に関しても学術の国際社会の動きと呼応してアピールを発した。

学術分野の国際交流については、学術会議の活動の重要な部分を占める。多様な分野の活動を推進するとともに、欧米諸国のみならず近隣諸国との交流が促進されるようにしていくことが重要である。

(3) 国民との連携及び内外に向けた情報発信力の強化

前述の 4-9 月期の活動で述べた成果に加えて、復興支援委員会提言の動画配信、種々の提言等発信時に記者説明等を丁寧に行う、NHK 視点論点への出演（高レベル放射性廃棄物の処分について）等発信力強化。

学術会議 1 階ホールでの展示もスタートさせる。

HP、学術の動向、各種の報告書等学術会議が直接活用できる媒体をフルに活用するとともに、広くメディアに情報提供し、学術会議の主張を的確に伝えてもらえるように工夫していくことが一層求められる。

4 2012 年 10 月—2013 年 3 月までの活動方針

(1) 東日本大震災復興支援の一層の促進

6 分科会の活動を促進し、適切な段階で提言等を発していく体制を強化する。東日本大震災に関わる審議を行っている分野別委員会等が多数ある。これらと復興支援委員会の横の連携をはかる。

(2) 学術の社会貢献・社会的責任、さらに科学者の倫理

これらに深く関係する原子力利用の将来像、デュアルユース問題等に取り組む。科学者

倫理の再認識、学術の社会貢献、社会的な責任論に関して包括的な見解を示していくことも重要

（３） 科学技術立国を支える学術の発展

科学技術研究促進、その成果の社会還元をはかる。また大学教育の質保証についても審議体制の拡充を図り、高等教育のレベル向上に資する。大型研究施設・研究計画についてわが国の国際協力、国際貢献を強めるために具体的な課題を提示。

（４） 科学技術分野の国際交流の推進

先進工業国間のみならず、新興国、途上国とも積極的に交流する。また特に、近隣諸国との学術的な交流をさらに発展させ、相互理解の基礎を堅固なものとする。

（５） 会員・連携会員選考の基本方針をまとめる

優れた研究又は業績ある科学者のうちから会員候補者を選考し総理大臣に推薦。加えて、男女比・地域バランス・新分野開拓等に配慮し、“狭い世界”で会員選考が行われることがないようにする。

報	3
総 会	1 6 3

武 市 副 会 長 報 告

組織運営及び科学者間の連携に関する活動報告 (平成 24 年 4 月～平成 24 年 9 月)

副会長 武市 正人

1. 科学者委員会

科学者委員会では科学者間の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている 7 分科会をとりまとめている。

科学者委員会は、平成 24 年 4 月以降、6 回のメール審議を行った。

(1) 日本学術会議協力学術研究団体の指定

日本学術会議協力学術研究団体指定への新規申請に対する審査を行っている。旧来の登録学術研究団体及び広報協力学術団体を協力学術研究団体へ移行する際の申請に係る経過措置(平成 17 年 10 月から実施)を平成 24 年 6 月末までに終了した。なお、協力学術研究団体指定の審査及び郵便事業株式会社による学術刊行物指定への審査協力に関連して、協力学術研究団体のあり方を含めて、指定要件の見直しと再審査等に関する検討を行っている。

(2) 地区会議との連携

平成 24 年度上半期には、各地区会議運営協議会、学術講演会及び地域科学者との懇談会等を開催（帯広、金沢）し、地区会議ニュースを発行した。なお、地域科学者との交流を深めるために、地区会議の学術講演会等には、可能な限り会長又は副会長が出席することとしている。

(3) 分科会活動の状況

● 広報分科会

平成 24 年度上半期に 2 回開催した。

広報分科会は、広報活動の状況を確認し、月刊誌『学術の動向』の編集について審議している。第 22 期には、『学術の動向』の編集にあたって、「科学と自然」、「震災復興」、「原発問題」、「食の安全」、「安全・安心な社会の構築」などに重点を置くこととしている。

● 男女共同参画分科会

平成 24 年度上半期に 1 回開催した。学術界における男女共同参画推進に関する調査のために、協力学術研究団体に対して代表や会員の女性比率等についてアンケートを行うこととした。

- 学術体制分科会

平成 24 年度上半期に 2 回開催した。学術体制のあり方等について、第 20 期の提言を踏まえて、今後の審議に向けた論点を整理した。

- 学協会の機能強化方策検討等分科会

平成 24 年度上半期に 2 回開催した。著作権の権利制限の導入が学協会に及ぼす影響等について審議を行った。また、協力学術研究団体に対して、新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のためのアンケート調査を行うこととした。

- 学術の大型研究計画検討分科会

平成 24 年度上半期に 5 回開催した。各部の夏季部会で議論しマスタープラン策定方針をとりまとめた。平成 25 年 2 月頃に公募を開始、平成 26 年 2 月頃に計画案を策定し、必要に応じてパブリックコメントを求めて、同年 4 月の総会で報告する予定である。

- 学術誌問題検討分科会

平成 24 年度上半期に 2 回開催した。学術誌に係る諸問題について、第 21 期の提言内容及びその後のフォローアップについて審議事項を整理し、今後の課題を検討した。

- 知的財産検討分科会

平成 24 年度上半期に 2 回開催した。知的財産政策等に関する課題を整理し、今後の審議スケジュール等を検討した。また、今後の重要検討項目となる情報、医療分野の課題、知財法、知財教育について専門家にヒアリングを行った。

2. 会員・連携会員の情報共有

会員及び連携会員が学術会議の各種の活動に参画し、委員会等を構成するために、相互に専攻分野等の情報を共有する仕組みの整備を進め、会員及び連携会員のうちで会員活動において選考時に提出された情報の利用を承諾した約 1,200 名に関する情報を会員及び連携会員が学術会議内で検索・照会できるようにした。

3. 会員・連携会員向けの電子掲示板

会員及び連携会員が利用できる公式の電子掲示板の整備を進め、平成 24 年 5 月から会員及び連携会員が掲示板による意見交換をできるようにした。幹事会における資料の共有等でも活用しているほか、委員会や分科会でも利用されているが、今後の活用が期待される。

報	4
総 会	1 6 3

小 林 副 会 長 報 告

政府、社会及び国民等との関係に関する活動報告 (平成 24 年 4 月～平成 24 年 10 月)

副会長 小林良彰

1 概要

政府、社会及び国民等との関係に関しては、21期からの申し送り事項として、以下が挙がっていた。

●提言・助言機能の強化

- ①課題別委員会のテーマ設定
- ②短時間で結論を出す新しい仕組みの導入
- ③代表性の確保への配慮
- ④査読体制の明確化
- ⑤意思の表出の政策への反映、フォロー等

●社会・国民との連携強化

- ①広報体制の強化
- ②ジャーナリズムとの協力関係の促進

●政府との連携強化

これらを踏まえ、科学と社会委員会は、勧告、要望等の内容の検討、国民の科学に対する理解の増進、その他学術会議と政府、社会及び国民等との関係について審議を行い、今期においては、7回の委員会を開催した。

平成24年4月以降は、課題別委員会からの議事要旨の提出、査読担当委員からの報告及び事務局からのヒアリング等により、課題別委員会の審議状況の把握を行うとともに、提言等の査読を実施した。

また、査読・助言体制のいっそうの充実を目指し、査読委員数の増員、査読委員の担当委員会への出席及び査読フロー図に関する規定の改正等を審議し、幹事会に提案した。

更に、政府、社会及び国民等との連携強化分科会において出された、提言等は動画で説明を行うべきとの意見を踏まえ、会長による説明動画（東日本大震災復興支援委員会提言関係）のホームページ掲載も行われている。

2 「科学と社会委員会」の分科会報告

（1）課題別審議検討分科会

今期においては9回の分科会を開催し、課題別委員会に係る幹事会における議論を支援した。

平成24年度4月以降、課題別委員会及び分科会の設置提案については、総務省からの審議依頼を受けたものをはじめ、以下2件の審議を行った。

委員会等	設置期限	委員数
アジアの大都市制度と経済成長に関する検討委員会 【総務省からの審議依頼を受けたもの】	平成25年3月31日	20名
大学教育の分野別質保証推進委員会 土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会	平成25年7月31日	20名

また、課題別委員会の設置期限の延長については2件、委員の候補等については、のべ39名の審議を行った。

（2）課題別審議等査読分科会

勧告、要望及び声明並びに課題別委員会が作成する提言及び報告の草案の査読に関して、それぞれの分野に係る専門的知見を有する者の見識も生かしつつ、より充実した査読を行うため、平成24年1月の幹事会決定により設置された。

（3）年次報告等検討分科会

今期においては4回の分科会を開催し、外部評価委員から意見聴取に基づき、「日本学術会議第21期3年目（平成22年10月～平成23年9月）の活動状況に関する評価」をとりまとめた。

また、年次報告（平成23年10月～平成24年9月）の構成等について検討し、とりまとめた。

（4）政府、社会及び国民等との連携強化分科会

日本学術会議と政府、社会及び国民等との連携の一層の強化を図り、日本学術会議の存在感をより高めるための様々な方策の検討、実施を行うため、平成24年1月の幹事会決定により設置された。

(5) 科学力増進分科会

今期においては8回の分科会を開催し、社会全体の科学リテラシーを高めるために、学術会議として今後何をなすべきかについて審議を行っている。また、平成24年4月以降、科学者と一般市民が、科学について直接対話する場として、「サイエンスカフェ」を文部科学省情報ひろばラウンジで、以下の通り開催した。

開催日	テーマ
平成24年 5月25日	古代に学ぶ津波科学ー被災しなかった神社や津波堆積物分布が示唆することー
7月27日	3.11後の科学技術と社会ー「コミュニケーション」から「ガバナンス」へー
9月28日	サイエンスとの〈対話〉は可能か？ー3.11以後の社会を考える

更に11月には「サイエンスアゴラ2012」の開催を以下の通り予定している。

開催日	シンポジウムのテーマ等
11月10日～11月11日 (予定)	・将来の科学人材育成から見た秋入学の是非 ・科学・技術でわかること、わからないこと Part II ・日本学術会議提言「学術からの提言ー今、復興の力強い歩みをー」シンポジウム ・地球に生きる素養を身につけよう ・討議：高レベル放射性廃棄物の処分はどうあるべきか！？

(6) 「知の航海」分科会

科学と社会委員会の分科会として設置し、3回の分科会を開催し、「知の航海」シリーズの企画について審議を行っている。平成24年4月以降、以下の2冊の

新刊が発刊されている。

タイトル		著者
グローバルゼーションの中の江戸	(既刊)	田中 優子
代理母問題を考える	(既刊)	辻村みよ子

報	5
総 会	1 6 3

春日副会長報告

国際活動報告[平成24年4月～24年9月]

国際担当副会長 春日 文子

1. 国際委員会及び分科会等の開催

(1) 国際委員会

第12回(4/11)～第17回(9/13)(メール会議含む)

(2) 分科会等

① 国際会議主催等検討分科会

第3回(6/28)

② アジア学術会議分科会

第3回(4/11)・第4回(8/7)

・第12回SCA会合担当小分科会
第3回(4/11)

③ G8及びICSU等分科会

・ICSU附置委員会对応小分科会
第1回(9/12)

④ 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012分科会

第1回(4/6)・第2回(5/15)

2. 国際会議等への代表の派遣

- ・STSフォーラム評議員会：2012年4月19～20日、ベルリン(ドイツ)
- ・第13回ICSUアジア・太平洋地域委員会会合：平成24年4月26～27日、クアラルンプール(マレーシア)
- ・ワールドサイエンスフォーラム運営委員会：2012年6月12～13日、リオデジャネイロ(ブラジル)
- ・カヴリ賞授賞式等：2012年9月3～6日、オスロ(ノルウェー)

など

3. アジア学術会議

第12回アジア学術会議

2012年7月10日～12日、ボゴール(インドネシア)

派遣者：大西会長、春日副会長、白田第一部会員、園田連携会員、
土生連携会員、毛利連携会員

4. 共同主催国際会議

(1) 平成 24 年度共同主催国際会議

- ・ 第 14 回 IACIS 国際会議（5/13～18：仙台）天皇皇后両陛下御臨席
大西会長主催者挨拶
- ・ 第 25 回ニュートリノ・宇宙物理国際会議（6/3～9：京都）園田政務官出席
春日副会長主催者挨拶
- ・ 第 26 回国際計量生物学会議（8/26～31：神戸）
春日副会長主催者挨拶
- ・ 第 16 回国際アルコール医学生物学会総会（9/9～12：札幌）
春日副会長主催者挨拶
- ・ 第 19 回国際質量分析会議（9/15～21：京都）
春日副会長主催者挨拶
- ・ 第 32 回国際泌尿器科学会総会（9/30～10/4：福岡）皇太子殿下御臨席
大西会長主催者挨拶

(2) 共同主催国際会議の選考に関する規定の整備

「日本学術会議の行う国際交流事業の実施に関する内規」について、より多くの申請が可能となり、また柔軟な選考が行うことができるよう規定の改正を行った。

5. 二国間学術交流

(1) ミャンマー

2012 年 5 月 20～24 日、ミャンマー学術機関

派遣者：春日副会長、白田第一部会員、土生連携会員

(2) ネパール

2012 年 9 月 25～27 日、ネパール国家科学技術会議

派遣者：白田第一部会員

6. その他

(1) 表敬訪問

- ① 国際科学会議（ICSU）会長 2012 年 5 月 8 日（大西会長、春日副会長）
- ② ミャンマー教育省高等教育局次長 2012 年 6 月 4 日（春日副会長、白田第一部会員）
- ③ スロバキア科学アカデミー会長 2012 年 6 月 28 日（大西会長、春日副会長）
- ④ 南アフリカ大使 2012 年 9 月 14 日（大西会長、春日副会長）

(2) ICSU WDS 国際プログラムオフィス開所式：大西会長祝辞